

令和7年度 京都府立京都八幡高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>「ユニバーサルデザイン(UD)」を基本理念とし、「科学・共生・感動」のコンセプトを具現すべく教育活動を展開し、生涯を通じて不断に学び考え、多様な人々と協力し合いながら、主体性を持ってより良い社会作りへ貢献できる人材の育成を目指す。そのために、以下のことを推進する。</p> <p>(1) 学習における基礎・基本を徹底し個性を伸ばすことにより、知識・技能に加えて、学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力等、幅広い学力を育む活動を推進する。</p> <p>(2) 基本的な規範意識と倫理観、公共心や他者を思いやる心など、豊かな人間性・社会性を育む活動を推進する。</p> <p>(3) すべての教育活動の実践をとおして、南北キャンパスの絆を強め、教職員の資質向上に努めるとともに、信頼され、期待される学校づくりを推進する。</p>	<p>教育活動への大きな制限もなく、本校がこれまで培ってきた南北両キャンパスの特色ある活動の多くを取り戻すことができた。ただし、この数年の社会情勢や人々の感覚の変化、生徒を取り巻く教育環境の変化をとおした教育活動であることの検証が必要である。</p> <p>学習に取り組む意欲が弱く、基礎的な学力に課題のある生徒に対して、学び直しとなるスモールステップを意識した丁寧な授業を行ってきた。生徒対象の授業アンケートでは、分かりやすい授業であるとの評価が多い結果となり評価できる。タブレット端末の活用により学習形態のUD化をすすめ、学習する雰囲気高めるといったことにつなげた。</p> <p>また、基本的な生活習慣の確立のために遅刻・欠席状況について家庭との連携を密にし、生徒の状況把握に努めた結果、特別ニーズ会議等で検討を重ねて適切な支援につなげることができた。しかし、単位修得に影響が出る生徒も多く、社会的自立心を育む教育活動を意識した生徒指導を全校的に行わなければならない。その方策のひとつとして、日々の学習の動機付け、学習目標・進路目標の意識付けを生徒に促す、系統的なキャリア教育を推進する必要がある。</p> <p>教職員が一致した指導を行うことで、学校全体の生活規律の改善が見られた。多様なエリア・コースを設置し南北キャンパスのそれぞれの特色化をすすめるが、両キャンパスの教職員間、また地域と連携をとりながら、教育活動の活性化を図りたい。</p>	<p>南北両キャンパスそれぞれの個性を生かしながら、あらゆる教育活動をとおして、「科学・共生・感動」の3つのコンセプトの具現化を図るとともに、生徒及び保護者に信頼され、地域から期待される学校づくりを推進するため、以下のことを本年度の重点課題とする。</p> <p>(1) 個々の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導の充実及び特色ある教育活動の推進</p> <p>(2) 保護者・地域との連携による基本的な生活習慣の確立及び社会的自立心の育成</p> <p>(3) 学校行事・部活動・ボランティア活動等の充実による学校の活性化</p> <p>(4) 各学科それぞれの教育内容改善に向けた検討と方策の具体化</p> <p>(5) ICT教育の充実、学習形態のUD化の推進</p> <p>(6) 達成感や自己肯定感の醸成を図るキャリア教育の充実、推進</p> <p>(7) 就学保障及び進路保障に向けた指導の充実</p> <p>(8) 安心・安全な教育環境・施設設備の整備と充実</p> <p>(9) 八幡支援学校との協働を含めたインクルーシブ教育の推進</p> <p>(10) ワークライフバランス及びタイムマネジメントの意識を高め、時間外勤務削減に向けた業務改善や多忙化改善</p>

分掌・教科	評価領域	評価項目	重点目標	重点目標の評価指標	ターゲット	評価	具体的方策	方策の評価指標	ターゲット	評価	成果と課題
組織運営	組織運営	教職員の資質向上	各種研修を活用することで学校の教育力を向上させる。	教職員の資質向上を図るための計画的な研修の受講	受講者数 20名以上		センター研修等の積極的な受講を促し、3年間ですべての教員が研修を受講する。(3年目) 他教科の授業を含めた授業見学の充実	必修研修に加えた研修の受講者数 授業見学に参加する教職員数	のべ20名以上 のべ200名以上	中間 年度末	
		学習のUD化の推進	ICT機器を積極的に活用し、学習のUD化を推進する。	ICT機器を活用した授業の割合	70%		春と秋の授業見学期間を活用して、特にICT機器を活用した授業に取り組む。 ICT機器を活用した教職員の負担軽減策の工夫	期間中の機器活用の割合 新しい取組の実践数	70% 2企画		
UD推進部	UD教育	UD学習	ユニバーサルデザインの姿勢や態度を身に付けさせる	学校満足度アンケート「人権意識を高めるための学習や指導に積極的に取り組んでいる」項目に対する肯定率	80%		校内UD化を推進する 効果的なUD学習を実施する	企画実施回数 UD学習アンケートより「それぞれの人がもつ様々な個性や違いを認められるようになった」の肯定率	3回以上 90%以上		
		組織・運営	生徒募集	本校の魅力を効果的に発信し、志願者を増やす	入試選抜における志願者数	前年度の志願者数を超えている	学校ホームページの充実 中学校及び塾訪問の実施 学校説明会の参加促進と内容充実	最新ニュースの発信やコンテンツ更新の年間回数 年間訪問回数(定例の中学校訪問は除く) 学校説明会参加者の前年度比	180回以上 10回以上 10%増		
教務部	組織・運営	生徒異動	学習指導・学習環境の充実による学ぶ意欲の向上	転退学者数	昨年度比減		教科と連携し、調査前・学期末に成績不振者に対し、基礎補充を実施する。 追認指導実施状況の確認 校務システムへの入力及び欠課過多生徒の報告(連絡)の徹底を呼びかける	全校生徒における成績不振者数の割合 追認認定率	20%以下 75%		
		組織・運営	学力向上	学習環境の整備を図る	学校満足度アンケート「Q8:学校全体に学習する雰囲気がありますか」の肯定率	67%		読書活動の推進 ICT活用の推進	注意喚起及び状況報告の実施回数 生徒一人あたりの貸出冊数 研修会の実施回数	週に1回 昨年度比増 3回	
生徒指導部	生徒指導	生徒指導	高校生としてふさわしい態度や行動を身に付けさせる	学校満足度アンケート(Q12)エチケット指導がきちんとできているの肯定率の平均	肯定率 75%		高校生としてふさわしい態度についての啓発指導(担任への資料提供、生徒会活動、教室掲示等) 交通安全指導(自転車指導) 生活規律指導を用いた指導	実施回数 自転車指導件数 (北キャンパス)1・2クールと3・4クールを比較した増減(南キャンパス)学期内の早朝登校完了者数の割合(北)10%減(南)80%	12回 10件以下		
		生徒指導	学校行事・部活動	生徒の主体性を育み、学校への帰属意識を高める	学校満足度アンケート「文化祭・体育祭などの学校行事が充実していますか。」「本校に打ち込める部活動や体験活動がありますか」の肯定率	肯定率 75% 強い肯定率 35%		文化祭・体育祭の満足度の向上 部活動加入を促進	各行事生徒向けアンケートの強い肯定率 12月時点での部活動加入率(昨年度末より5%増加)	80% 45%	
進路指導部	キャリア教育の充実と推進	組織的な進路指導と進路実現	各学年との連携を密に、正しい職業観、勤労観を身に付けさせるとともに、明確な進路目標を持たせることで進路実績の向上を図る。	学校満足度アンケート「将来の進路や生き方について考える機会が設けられているか」との肯定率	90%		進路情報の効果的な提供を行う。 進路ガイダンスやHRIにおける進路学習を通じて、進路希望について考える機会を持つ。 進路希望の実現に向けた知識や能力を身に付けるため、補習や指導を充実させる。	学校満足度アンケート「就職・進学に関する情報の提供は十分だと思えますか」の肯定率 学校満足度アンケート調査「生徒の進路実現に向けて、効果的な指導を行っていると思えますか」の肯定率 卒業生における進路未決定者の割合	90% 90% 10%以下		
		保健管理	環境管理	安心安全な教育環境を維持するため、環境美化への意識を高め、清掃活動を充実させる。	学校満足度アンケート「教室や廊下、下駄箱はきれいに清掃されていますか」の肯定率	75%		安全美化委員会、生徒会、保健委員会で清掃活動に関する呼びかけを行う。 定期的な、校舎内外の衛生・安全面における環境整備の状況や清掃用具の点検を行う。	呼びかけの回数 実施回数	2回 学期に2回	
保健部	保健管理	健康管理	心身の健康管理への意識を高める。	学校満足度アンケート「本校は生徒の心身の健康管理に取り組んでいるか」との肯定率	85%		「ほげんだより」を発行し、心身の健康についての情報を提供して健康管理への意識を高める。 検診後の治療勧告、および未処置者への働きかけを行う。	発行回数 再勧告の実施	10回以上 学期ごと		
		学習指導・生徒指導	規律の確立と維持	日々の学校生活及び授業を大切にす基本的な生活習慣の確立を図り、それを維持する。	学校満足度アンケート「学校全体に学習する雰囲気がありますか」の肯定率	60%		SHR等において遅刻・欠席・授業規律・服装などの徹底した指導を行う。 生徒の状況を把握するために担任と生徒及び保護者との面談を行う。 キャリア教育や交流行事等をおして勤労観の醸成・社会対応力の向上を行う。	担任による確認・指導頻度 面談の実施回数 ガイダンスや実習等の実施回数	週3回 年間3回 年間10回	
第2学年部	進路指導	進路意識の向上	進路保障に向けた指導を検討・改善し、進路希望未決定者を減らす。	学年末進路希望未決定者数	15名以下		生徒や社会の状況やニーズを捉え、時宜を得た声かけや指導を行う。 きめ細やかな進路情報を提供し、将来への考えを深める機会を増やす。 ①基礎学力のさらなる定着のため、学習する雰囲気高め、②日常的に遅刻・欠席などの欠課時数に関する注意喚起を徹底する。	個別面談実施回数 進路学習実施回数 ①学校満足度アンケート「学習する雰囲気」肯定率②生活規律指導の対象者割合(各クール)	年間3回 年間5回 ①65%②15%未満		
第3学年部	進路指導	進路保障	生徒一人一人が納得のいく進路を選択して卒業できるようにする。	半期毎に学年内で実施するアンケート「現在の進路設定に対して納得していますか(5段階)」の平均値	4.5		個別面談を通して生徒の希望進路を把握し、各分掌や保護者と連携して指導を行う。 進路別ガイダンスや学習会、就職セミナー及び面接指導を計画的に実施する。 南北キャンパス間を含め、担任間の連携を密にし、情報とノウハウを共有する。	生徒や保護者との面談回数 生徒一人一人の進路に応じた指導の計画的な実施 学年内の情報共有頻度	年間3回 週1回		
事務部	施設設備管理	生徒の事故防止	安心・安全な教育環境・施設設備の整備と充実を努める。	施設設備に起因する生徒の事故件数	0件		校舎・敷地内の日常点検を実施する。 教職員から施設設備の異常報告を受けた際に、速やかに対応策を検討する。 改修等を必要とする案件を所管課に報告し、改善を依頼する。	巡視の適当りの実施回数 対応策の決定、改善完了報告 報告・依頼の時期	1回 報告毎 案件毎		
		組織・運営	事務処理	生徒・保護者等に対して、就学保障や進路保障など各種制度に関する連絡や処理を適切に行う。	就学及び進学・就職を支援するための援護制度の周知徹底	制度通知の都度		生徒・保護者等に対する連絡や、手続きの進捗状況を北南の事務室内で共有し連携を図る。 教職員(特に学年部)との連携を密に行う。	配布資料、校内締切日等の調整及び確認 配布依頼の際、教職員への適切な説明及び周知	案内毎 配布毎	
専門学科	魅力ある学科づくり	学習指導	専門学科生に必要な主体的に学ぶ姿勢と幅広い学力を身に付ける。	学校満足度アンケート2「奉仕・体験・読書活動など、幅広い学力を身に付ける取り組みが充実していますか」の肯定率	90%		教室及び机の周囲の整理整頓、学習環境の整備を行う。 授業の開始時と終礼時の挨拶、授業準備を徹底する。 八幡支援学校との協働を含めたインクルーシブ教育の機会を確保する。	授業アンケート10「私は授業の準備をしっかりとっている」の肯定率 学校満足度アンケート8「学校全体に学習する雰囲気がありますか」の肯定率 実施機会	3.5以上 70%以上 両学科1回以上		
国語科(北)	学習指導	学力向上の意識付け	生徒一人一人を積極的に授業に参加させ、学力の向上を実感させる。	授業アンケートQ6の平均値	3.5		生徒それぞれに定期テストや単元の終わりにごに評価の状況を説明し、改善を図らせる。 単元ごとに1回以上の授業内容を踏まえた課題を課す。 計画的に小テストを実施し、学習習慣の定着を図る。	実施回数 実施回数 得点率	定期テストごと 単元ごとに1回以上 60%		
地歴・公民科(北)	授業	基礎学力の向上	学習に向かう雰囲気作り、基礎学力の向上を図る	授業アンケートQ3、6、8の平均値	3.4		授業開始に教科書、資料集、ノートなど必要物を確認する。 調査ごとに学習内容を振り返りを行う。 学期ごとに授業見学と意見交流を行い、ICT活用方法などを共有する。	年間実施率 実施回数 実施回数	95% 5回 2回		
数学科(北)	授業	授業規律の向上と授業への積極的な参加	規律ある授業を確立し、生徒たちに意欲的に取り組ませ、基礎学力の充実を図る。	授業アンケートQ6「この授業は学力、技術の伸長を感じる」の平均値	3.4		服装等の身だしなみ、起立、礼を徹底する。 タブレット端末やプリント等を用いた、授業に意欲的に取り組めるような教材を作成・利用する。 集中して取り組ませる授業の展開	授業の取組の点検 ICT機器やプリントの活用回数 授業アンケートQ11「私は集中して授業に取り組んでいる」の平均値	週3回 週3回 3.4		
理科(北)	授業	基礎学力の向上	授業に興味・関心をもたせ、自然現象に対する関心と理解を高める。	授業アンケートQ1「この授業は楽しみである」の平均	3.0以上		実物を手に取っての観察や実験、実験動画を用いて「考察」を行わせる。 授業中に実習や活動的な内容を多く取り入れ、生徒の活動を充実させる。 課題を設定し、レポートを作成させ、科学的な思考・表現力を高める。	実施回数 実施回数 実施回数	各講座平均3回 各講座学期3回 各講座学期1回		
保健体育科(北)	授業	学習意欲の向上	自らの健康を管理し、改善できる資質や能力の向上を図る。	授業アンケートQ12「私は授業に積極的に取り組んでいる」の評価の平均値	3.5		授業での身だしなみ、ルールやマナーを守る意識を向上させる。 ベル着、授業開始時と終了時の挨拶を徹底する。 健康の保持増進につながる基礎体力の向上を目指す。	体育において装飾品や化粧など身だしなみ指導を徹底して行い、怪我なく事故なく安全のためにルールを遵守する割合 体育・保健ともに授業開始のチャイム鳴り終わりに集合完了と、しっかりと整列して挨拶ができる割合 サーキットトレーニング、持久走の記録向上割合	75% 75% 70%		
芸術科(北)	授業	授業の取り組み状況	授業規律を確保し、諸活動に真剣に前向きに取り組む姿勢の定着を図る	授業アンケートの項目7,8,10,11の全講座平均値	3.5		授業開始チャイムの前から呼びかけ、忘れ物の確認や私語・居眠り・活動状況について常に指導する。 取り組む課題について、作品や演奏でより良い表現を目指して粘り強く努力するように指導する。 白紙の成果を発表する場を設定することで、自己の作品・演奏に責任をもたせるとともに、鑑賞指導の充実を図る。	授業規律確保のための声かけの状況 各生徒の活動状況に応じた指導の割合 作品や演奏を発表し鑑賞する場面の設定(講座クラス内での発表会を含む)	常時 80%		
英語科(北)	学習指導	学習意欲の向上	英語を学ぶことの面白さを実感させ、英語学習の動機付けを高める。	授業アンケートQ1(この授業は楽しみ)の平均値	3.3		どの講座でもALTとのITを積極的に活用し、英語でコミュニケーションすることの面白さを生徒に実感させる。 英語圏の文化(洋楽やスポーツ等)を紹介する機会を持つ。 小テストを継続実施し、学力の伸びを生徒に実感させる。	各学期の実施回数 各学期の実施回数 各学期の実施回数	2回以上 1回以上 5回以上		

分掌・教科	評価領域	評価項目	重点目標	重点目標の評価指標	ターゲット	評価	具体的方策	方策の評価指標	ターゲット	評価	成果と課題
			「学校経営の重点」「生徒満足度調査」「前年度の成果と課題」等を受けて、何を重点目標とするか。	どのような結果・成果をもって重点目標が達成されたとみなすか。			重点目標のターゲットをクリアするために、どのような行動をとるか。	どういう状態をもって「方策を十分講じた」と判断するか。		中間 年度末	
家庭科(北)	学習指導	学習意欲の向上	授業内容と実生活を結び付け、今後の自分の生活をより良くする方法を考えさせる。	授業アンケートQ12「私は積極的に先生の質問に答えたり課題に取り組んだりしている。」	3.4		興味関心を持たせ、内容の理解度を高めるために、視聴覚教材を効果的に使用する。 授業の振り返りを記入させ、生徒の学習状況と授業の理解度を確認する。 授業内容と自分の生活を結び付けるための課題を設定し、自分の考えを書かせる。	ICT機器使用割合 1年:振り返りシートの点検回数、2、3年:授業プリントの点検回数 課題の設定回数	90% 毎回 各学期2回		
情報科(北)	授業	授業に対する取り組み	情報化社会で生きていくための知識と技術を習得させる。	授業アンケートQ6「学力・技術の伸長を感じる」の平均値	3.3		授業内容をまとめた動画を見せ、Webテストを行う事で定着を図る。 課題やワークシートの提出を徹底する。	実施回数割合 提出割合	90% 80%		
商業科(北)	授業	授業の成果	ビジネスに関する知識や技術の自律的修得	授業アンケート「学力や技術が伸びた」の回答の平均値	3.1		全ての授業において、パソコンまたはタブレット端末を活用する。 毎時の授業で、学習の振り返りができる時間を設定する。 ICT技術を活用して自律的な学習を促進する。	授業における使用頻度。 各授業での実施率 各授業での実施率	85%以上 85%以上 85%以上		
国語科(南)	学習指導	基礎学力の向上	積極的に学習する雰囲気作りを努め、基礎学力の向上を図る。	授業アンケートQ7～Q12の平均値	3.4		定期調査毎にノートを回収し点検する。 授業外での学習習慣の定着を図り、小テストを行う。 ICT機器を活用し、授業内容への興味関心を促す。	点検回収 小テスト回数 機器使用回数	調査毎 年間10回以上 単元ごとに1回		
地歴・公民科(南)	学習指導	基礎学力の向上	授業を意欲的に取り組む姿勢を身に付けさせ、基礎学力の向上を図る。	授業アンケート項目Q1～Q12の平均値	3.4		授業中にプリントを書かせる。また、学習項目毎にまとめを記入させる。定期的な点検をし、加点の対象とする。 ICT機器を活用し、授業への興味関心を促す。 生徒がタブレットを利用した授業を導入し、学習意欲を喚起する。	実施回数 機器の使用回数 機器の使用回数	単元ごと 毎回 単元ごとに1回		
数学科(南)	学習指導	基礎学力の向上	授業規律を確立する。 生徒の学習意欲を高める工夫をし、基礎学力の充実を図る。	授業アンケートQ10「私は授業の準備をしっかりとしている。」の平均値	3.4		定期的な課題を課し、ICTを活用し家庭学習の習慣と基礎学力を身に付けさせる。 始業チャイムと同時に立礼をし、授業に取り組む態度を身に付けさせる。	実施割合 実施割合	70% 80%		
理科(南)	学習指導	基礎学力の向上	学力の定着を図るため、学習に取り組む姿勢を高める	授業アンケート項目「この授業は楽しみ」の評価の平均値	3.2		各生徒の学習状況を把握するため定期調査毎にノート点検を行う。 成績不振者に学習方法の指示を行い、状況に応じて補充を行う。	学習したノートの提出 成績不振者への補充実施	定期調査毎に提出 定期調査毎に実施		
保健体育科(南)	授業	学習意欲の向上	自身の健康やスポーツライフについて自ら考え、行動できる資質能力の向上を図る	授業アンケートQ9「クラス・講座全体が積極的に取り組んでいる」の評価の平均値	3.5		安心安全な授業環境を確保するために規律を保つ姿勢を身に付けさせる。 自身の課題を見つけ、積極的に授業参加させる。 種目に応じた基本運動を通して、体力の5つの要素の向上を目指す。	授業開始・終了の整列挨拶をきちんと行い、指示を聞く・活動をする等のけじめをつける 授業ごとに目標設定をさせ、スモールステップで達成感を味わい運動に対する嫌悪感を減少させる スポーツテストの成績「平均より下回っている」項目を前年度より減らす	70% 70% 70%		
芸術科(南)	学習指導	生徒の授業への意識の向上	意欲的に学習に取り組む姿勢を高める	授業アンケート7、8、9の平均値	3.4		机間指導等の学習への取組状況の確認。 課題や作品の提出期限を守らせる。 授業規律を確保する。	生徒の活動状況に応じた指導の割合 提出期限の明示、声掛けの実施 私語・居眠り等を促す生徒への注意	常時 課題毎 常時		
英語科(南)	学習指導	基礎学力の向上	ICT機器を有効に活用し、基礎学力を向上させる	授業アンケートQ7から12の平均値	3.2		ICT機器を活用した授業の実施 小テストを実施し、生徒の学習状況と定着度を確認する。 表現活動を実施し、生徒の主体的な学習を促す。	実施割合 各学期の実施回数 各学期の実施回数	85% 5回以上 2回以上		
家庭科(南)	学習指導	基礎学力の向上	実践的・体験的な授業を通して、家庭科に対する興味関心を引き出すとともに、知識・技能の向上を図る。	授業アンケート5、6の項目の平均値	3.3		実践的・体験的な授業の実施 ICT機器を活用した授業の実施 授業時間内の課題や、振り返り課題の実施	実施割合 実施割合 実施割合	60% 85% 70%		
情報科(南)	学習指導	学習意欲の向上	主体的に授業に参加し、自ら学ぶ態度、姿勢を育てる	授業アンケートQ12「私は積極的に先生の質問に答えたり課題に取り組んだりしている」の評価の平均値	3.3		授業開始時にはコンピュータ起動ができていないか点検する。 課題への取組状況や態度を点検する。	指導割合 指導割合	80% 80%		
福祉科	学習指導	基礎学力の向上及び専門的な知識や技術の定着	授業規律を確立し、専門的な知識・技術の定着をはかる。	授業アンケートQ7、Q8の平均値	3.3		授業準備を徹底し、授業に取り組む態度を身に付けさせる。 ICT機器を活用した授業を行い、学習形態のUD化の推進をはかる。 生徒の様子や授業内容について情報交換を行い、教科内で連携をとる。	各授業での実施率 実施割合 教科会議の実施回数	90% 80% 月1回		